

# 日本戦前映画論集

## 映画理論の再発見

Rediscovering Classical Japanese Film Theory — An Anthology

●監修●

アーロン・ジェロー  
イエール大学教授

岩本憲児

早稲田大学名誉教授

マーク・ノーネス

ミシガン大学教授

A5判カバー装／本文9ポ・約770頁

本体4,800円(税別) ISBN978-4-8433-5365-3 C1074

日本の重要な「映画理論」を  
初めて体系的に編纂・翻刻。  
映画関係者必携のレファレンス。

2018年  
5月刊行

ゆまに書房

# 批評、評論、エッセイ等々、さまざまな言説をテーマ別に集成。 不在とされてきた戦前「映画理論」の全容を初めて体系的に構築する。

## ◆.....解説・解題執筆者.....◆

アーロン・ジェロー（イェール大学教授）／岩本憲児（早稲田大学名誉教授）／マーク・ノーネス（ミシガン大学教授）／古賀太（日本大学教授）／斉藤綾子（明治学院大学教授）／角田拓也（コロンビア大学助教）／洞ヶ瀬真人（中部大学非常勤講師）／山本直樹（カリフォルニア大学サンタバーバラ校助教）／渡邊大輔（跡見学園女子大学講師）

映画批評の現実性

栗原章子

映画批評の現実性

何処かへ避難して空を飛ぶようになっていた凡ての文化領域も、反動期に廻る法を習得して来たインテリゲンチヤによってほつほつ生活の煙が立ちはじめた。

映画批評界も然り、とは今大声ではいえないにしても、この質すべき気運は皆無ではないのである。本誌発刊に於いての挨拶に今日の批評界には、「サロンの饒舌」「理論的ガラクタの傍若無人な横行あるのみです」とアッサリ片付けているのは文章の体裁上そうなのでもあろうか、こういう機械的な断定は、かつて批評界が反動の波の圧迫と、その未熟な公式性の故に、客観的な批評精神そのもののまでが嘲笑され、自らも卑下して雲隠れし、主観的なあまりに主観的な感想の花片の散乱ばかりがあった時期に主唱された北川冬彦氏の「批評の主観化」程超現実的な幽霊相手の話ではないにしても、今日にはそのまま妥当するものではない。歴史の浅い映画批評界ではこの漠然とした気運も相末にされてはならないのである。

今日の情勢下で、映画文化の一隅に、我らまた何をなすべきか？ 何をなし得るか？ 積極的な理論や問題

**本文見本**  
約60%に縮小

## 目次

- 序説● 日本と理論のコンプレックス
- 第1章● 活動写真の現在と将来  
同慶市隠「活動写真の前途」／中川重麗「非芸術の幻想」／権田保之助「活動写真の哲学と文明」／坪内逍遙「活動写真と我が劇の過去」
- 第2章● 活動写真の諸相  
帰山教正「活動写真劇の創作と撮影法」／覆面隠士「弁士評論」／橘高広「映画の破壊力と建設力」／江戸川乱歩「映画の恐怖」／川添利基「映画劇の本質」
- 第3章● マルクス主義とプロレタリア映画運動  
村山知義「映画人と近代味」／大森義太郎「芸術の階級性に関する断片」／佐々元十「玩具・武器―撮影機」／岩崎昶「宣伝・煽動手段としての映画」／ほか
- 第4章● リズム・前衛映画・モンタージュ  
飯島正「映画のリズム」／内田岐三雄「前衛映画 総論」／高原富士郎「モンタージュ論の発生と展開」／中井正一「春のコンティニューイティー」
- 第5章● 機械時代の芸術  
清水光「映画と機械」／中井正一「機械美の構造」／平林初之輔「芸術の形式としての小説と映画」／寺田寅彦「映画の世界像」／ほか
- 第6章● トークー論  
関野嘉雄「トオキイ…シネマの甦生」／森岩雄「日本映画転変録」／菅見恒夫「トークー演劇論」／佐々木能理男「同時性、非同時性及び対位法」
- 第7章● 批評家と批評論  
稲垣足穂「形式及内容としての活動写真」／飯島正「映画と批評」／栗原章子「映画批評の現実性」／谷川徹三「映画の内容」／ほか
- 第8章● 風俗・文化・観客  
尾崎翠「映画漫想」／宇野千代「現代もの多難」／深尾須磨子「鑑賞の心理」／中條百合子「映画の恋愛」／戸坂潤「映画の認識論的価値と風俗描写」／ほか
- 第9章● 漫画映画論  
双葉十三郎「ベティ・ブープの論理」／滋野辰彦「シリイ・シンフォニー」／今村太平「トークー漫画論」／高木場務「漫画映画論序説」
- 第10章● 日本映画の水準と国際性  
大宅壮一「映画の娯楽性と芸術性」／青野季吉「映画と文化」／谷川徹三「日本映画の国際性」／岩崎昶「日本映画の様式」／大槻憲二「日本映画の性格」
- 第11章● リアリズム・文化映画・記録の時代  
菅見恒夫「映画リアリズムの提唱」／辻久一「映画のリアリズム」／今村太平「映画記録論」／高木場務「文化映画論批判」／ほか
- 第12章● 枠・画面・時間  
村山知義「映画の限界性」／瀧口修造「映画の知的役割」／杉山平一「枠・画面」／沢村勉「変貌する映画」／大槻憲二「夢の映画的表現法」／ほか
- 第13章● 映画と国家：戦争と統制  
長谷川如是閑「映画法と映画の芸術性」／館林三喜男「映画統制の精神」／岩崎昶「映画法案を検討する」／津村秀夫「宣伝技術としての映画」

**本書の特色**

- ◆戦前に日本で発表された重要な映画論を厳選、テーマ別に集成。
- ◆精選された論文・記事を通して、気鋭研究者が日本の「映画理論」を再検討。
- ◆各論文に解題や註を附すほか、各章テーマごとの解説、参考文献等も収録。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL .03 (5296) 0491 FAX.03 (5296) 0493 http://www.yumani.co.jp/

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
<b>日本戦前映画論集</b> —映画理論の再発見— Rediscovering Classical Japanese Film Theory — An Anthology		<b>取 扱 店</b>	
定価：本体4,800円＋税 ISBN978-4-8433-5365-3 C1074		部	
お名前			
ご住所			
TEL ( )		18.04/01.7000.RS	

※表図版 = 大橋座週報『OHASHIZA NEWS』No.181より